

「もはや空しい心で歩まない」 エペソ4：17-19 堀田修一 20・3・22

I 「そこで」原語：「そういうわけですから」。先行する恵みを感謝しつつ＝クリスマスの恵み、主の十字架による罪の赦しの恵み、聖霊により新しい命が与えられ、キリストと命のつながりが与えられ、キリストの体、教会に結び合され、神の愛のうちに建てられるという素晴らしい恵みを受けているのですから、神に喜ばれる聖い歩みをしなさい。信仰生活は常に神の恵みへの応答

II そこで「私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい（空虚、内容のない、無益、無価値な、本当のものでない、愚かな）心（原語：思考、理解力、分別、心構え、考え方）で歩んでいるように歩んではなりません」：17。こう言われるという事は、私達は、この地上では、このように歩む誘惑、霊的な戦いがあるという事である。私達は、空しい心、考え方、分別ではなく、主と深く交わり、主に聞き、主にあって教えられ、主からいただく理解力、分別、心、心構え、考え方をもって歩めるように主に結び合され祈りたい。重要な選択を迫られる時、神からの分別を必要とする。

III 主を信じる以前の私達の姿。※もし主を信じないまま人生を送っていたら？もっと乱れた人生？

1. 「彼らは、その知性（原語：理解、認識能力、思考力、考え方、心）において暗くなり（曇っている）。「神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです」ローマ1：21）、彼らのうちにある無知と、かたくなな（原語：元来硬い石の名。硬化、頑固、無情、悟りの鈍さ。神を知り認める事を積極的に拒む。「彼らが神を知ろうとしたがらない」ローマ1：28）心とのゆえに」：18。→しかし、主を信じ救われた私達は今は、心の目を神により開けられ、また、主を信じた後の今も、「神を知る（知り続ける）ための知恵と啓示の御霊を与えてくださり、心の目がはっきり見えるように」祈る事が出来る（エペソ1：17、18）。

2. 「神のいのちから遠く離れています」：18。すべての命は、神が与えられるもの。神は命の与え主、命の造り主、命の源の方。私達は、主を信じる前は、神のいのちから遠く離れていた。神の憐みで、肉体的には、生きていた、いや、生かされていたが、神の生き生きした命、新しい命、永遠の命（素晴らしい神と親しく交わる命）からは、遠く離れていた。霊的には死んでいた。→しかし、主を信じた今は、「あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過のゆえに死んでいた（神のいのちから遠く離れていた）この私たちをキリストとともに生かし、…キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ」（エペソ2：4-6）、神のいのちに生きる者として下さった！感謝します。

3. 「道徳的に無感覚となった（痛みを感じなくなる、鈍感になる）彼らは、好色（放縦、放蕩）に身をゆだねて（任せる、引き渡す）、あらゆる不潔な行いをむさぼるようになっていきます」：19。主は、好色、放縦に身をゆだねる私達を救う為に→「キリストもあなたがたを愛して、私達のために、ご自身を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました」5：2。この「献げてくださいました」と彼らは、好色に身を「ゆだね」は同じ原語。つまり、好色、罪に自分自身をゆだねる罪の奴隷である私達を救い出すために、主は神に、ご自身を献げ＝ゆだね、十字架で私達の身代わりに死なれた。感謝します。「キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられた（「ゆだね」と同じ原語）」5：25。主の御愛を感謝します。その愛に感動、感謝し、私達も好色、罪にではなく、主に自分自身をゆだね、ささげて歩めますように。

4. 「あらゆる不潔（汚れ、不道徳、不品行）な行いを貪る（貪欲、欲深）ようになっていきます」：19。不潔な行いは一回限りではなく、繰り返され、どんどん深みにはまって行く、ひどくなって行く。貪り（その欲は、満足する事を知らず、止めようとせず）、その罪に縛られ、奴隷となって行く。不潔な行いへの対処の御言葉

→「毎日、ヨセフに言い寄ったが、彼は聞き入れず、彼女のそばに寝ることも、彼女といっしょにいることもしなかった。…ヨセフはその上着を彼女の手に残し、逃げて外へ出た」(創世記39:10、12)。「あなたの道を彼女(誘惑になるもの)から遠ざけ、その門(誘惑に会い、罪に陥ると分かっている所)に近づくな」(箴言5:8)。「淫らな行いを避けなさい」(Iコリント6:18)。私達を心から愛しておられる「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行(神の喜ばれないもの)を避け、各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち」(Iテサロニケ4:3、4)。聖書は何と深い実際的な対処を示して下さる事か!不品行に「自分の力で立ち向かえ」ではなく→「そばに、いっしょにいないように、逃げなさい、避けなさい、近づくな」、つまり、自分の弱さを自覚して近づかないようにしなさい。神に頼り、罪と距離を置く。そして素晴らしい神に近づく。素晴らしい「神に近づきなさい。そうすれば神はあなたがたに近づいてくださいます。…手(罪を犯す手)を洗いきよめなさい。…心を清くしなさい」(ヤコブ4:8)。誰も見ていない時、不品行や悪の誘惑がやって来ると、皆、弱い者である。それ故、信頼できる人に打ち明け、共に祈り合う(神に近づく)事は大きな力、支え。「互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。祈りは働くと、大きな力があります」ヤコブ5:16。私達が、主の満ち満ちた御姿に成長して行くとは、主の愛と聖い性質に変えられ続ける事。※神から与えられた男性という性、女性という性を大切にしたい。性の交わりは、結婚の中でのみ祝福される。結婚前の性の関係、夫、妻以外の人との性の関係は罪である。「すべての人との平和を求め、また、聖さ(神から与えられた性を聖く保つ)を追い求めなさい」ヘブル12:14。

IV 世の終わり、主の再臨のしるしと祈りと聖さの大切さ。

1. 弟子達は、主に「世が終わる時のしるしは、どのようなものですか」と尋ねた。マタイ24:3。主は答えられた。「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震(ルカ21:11「疫病」)が起こります。しかし、これらはすべて(新天新地の)産みの苦しみの始まりなのです」:7、8。世の終わりのしるしは、この1節だけではない。マタイ24章全体とルカ21章全体を読んでもらいたい。ただ、主は、「いつも目を覚まして祈っていなさい」ルカ21:36と言われた。

2. 二つの過ちに気を付けたい①霊的に眠り主の再臨はないと思う。使徒信条は?②一つの現象だけで、主の再臨は、いついつあると断言してしまう→「ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。…ただ父だけが知っておられます」マタイ24:36。「あなたがたも用心していなさい。人の子(再臨の主)は思いがけない時に来るのです」:44。

3. 主が今日、再臨されても良いように生きる事と将来の夢、ヴィジョンを祈り備える事は矛盾しない。

4. 私達が、地震や疫病を、仕方がない事とあきらめ、何もしないのは聖書的ではない。地震の復興や疫病の終息に協力し、すべての回復と治療薬の開発の為に心から祈るべきである。それは、一人でも多くの人々が救われる為である。「主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束した事(主の再臨=悪へのさばきと救いの完成)を遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることなく、すべての人が悔い改め(神に立ち返る)に進むことを望んでおられるのです。しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。…あなたがたは、どれほど聖なる敬虔な生き方をしなければならぬことでしょうか。…私たちは、神の約束にしたがって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます」IIペテロ3:9-13。

5. 「あなたがたは、今がどのような時であるか知っています。…私たちが信じたときよりも、今は救い(再臨)がもっと私たちに近づいているのですから。…遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、…品位のある生き方をしようではありませんか。主イエス・キリストを着なさい(主としっかり繋がりを歩む)」ローマ13:11-14。